

Alone

DEAR TOAD,  
I AM NOT AT HOME.  
I WENT OUT.  
I WANT TO BE ALONE.  
FROG

“Alone?” said Toad. “Frog has me for a friend. Why does he want to be alone?” Toad looked through the windows. He looked in the garden. He did not see Frog.

Toad went to the woods. Frog was not there. He went to the meadow. Frog was not there. Toad went down to the river. There was Frog. He was sitting on an island by himself.

“Poor Frog,” said Toad. “He must be very sad. I will cheer him up.” Toad ran home.

He made sandwiches. He made a pitcher of iced tea. He put everything in a basket. Toad hurried back to the river.

“Frog,” he shouted, “it’s me. It’s your best friend, Toad!”

Frog could not hear Toad. Frog was too far away from him.

Toad took off his jacket and waved it like a flag. Frog could not see Toad. Frog was too far away from him. Toad shouted and waved, but it was no use. Frog was still sitting on the island. He did not see or hear Toad.

A turtle swam by. Toad climbed on the turtle's back. "Turtle, carry me to the island. Frog is there. He wants to be alone," said Toad.

Frog pulled Toad up onto the island. Toad looked in the basket. The sandwiches were wet. The pitcher of iced tea was empty.

"We can't eat this lunch! It's so wet," said Toad. "I wanted to cheer you up, Frog, so I made it for you."

"But Toad," said Frog. "I *am* happy. I am very happy. This morning when I woke up I felt good because the sun was shining. I felt good because I was a frog. I also felt good because you are my friend. I wanted to be alone. I just wanted to think! Everything is fine and I am very lucky."

"Oh," said Toad. "So you wanted to be alone. I guess that is a very good reason."

“Now,” said Frog, “I am glad because I will not be alone. Let’s eat lunch.”

Frog and Toad stayed on the island all afternoon. They ate wet sandwiches without iced tea. They were sitting alone together, just two close friends.

[和訳]

親愛なるガマ君へ。  
外出しました。  
ひとりになりたいのです。  
ガエルより

「ひとりだって？」ガマ君は言いました。「カエル君は僕という友達がいるのにどうしてひとりになんかになりたいんだろう？」ガマ君は窓越しに家の中を見ました。彼は庭ものぞいてみました。彼はカエル君の姿を見ることができませんでした。

ガマ君は森へ行きました。カエル君はそこにはいませんでした。彼は草地に行きました。カエル君はそこにいませんでした。ガマ君は川まで降りていきました。そこにカエル君はいました。彼はひとりぼっちで小島に座っていました。「かわいそうなカエル君」ガマ君は言いました。

「彼はとても悲しいに違いない。彼を元気づけてあげよう」ガマ君は家に走りました。

彼はサンドイッチを作りました。彼は水差しいっぱいアイスティーを作りました。彼は何もかもバスケットに入れました。ガマ君は急いで川に戻りました。「カエル君」と彼は叫びました「僕だよ、君の親友のガマだよ！

カエル君にはガマ君声が聞こえませんでした。カエル君は彼からあまりにも遠すぎました。ガマ君は上着を脱ぎ旗のように振りました。カエル君にはガマ君が見えませんでした。カエル君は彼からあまりにも遠すぎました。ガマ君は大声で叫び上着を振りましたがそれは役に立ちませんでした。カエル君はまだ小島に座っていました。彼にはガマ君の姿も見えませんでしたし、声も聞こえませんでした。

一匹のカメがそばを泳いでいました。ガマ君はカメの背中によじ登りました。「カメ君、僕をあの島に連れてってくれ。カエル君は、そこにいるんだ。彼はひとりぼっちになりたがっている」とガマ君は言いました。

(カメ君の背中に乗ったガマ君は、途中で落ちてしまいました)

カエル君は、ガマ君を引き上げました。ガマ君は、バスケットの中のをぞきました。サンドイッチはぬれていました。アイスティーの入った水差しは空でした。

「このお昼は食べられないね。こんなにぬれてしまつて」とガマ君は言いました。「僕はカエル君を元気づけたかったんだ。それで君のために作ったんだ」

「でもガマ君」とカエル君は言いました。「僕は幸せなんだ。僕はとても幸せなんだ。今朝目が覚めたとき太陽が輝いていたので気分が良かった。それに君が僕の友達だから気分が良かった。僕はただ考えたかった。すべてのことが素晴らしくて、そして僕はとても運が良い」

「ああ」とガマ君が言いました。「それで君はひとりぼっちになりたかったんだ。それはもっともな理由だと思う」

「さあ」とカエル君が言いました。「僕ならうれしいよ、もうひとりぼっちじゃないからね。お昼と一緒に食べよう」

カエル君とガマ君は、その後ずっと小島にいました。彼らはぬれたサンドイッチをアイスティーなしで食べました。彼らは仲の良い親友として2人だけで座っていました。

**Focus!**  
1,2,3

- 1 過去形の使い方の復習
- 2 現在進行形、過去進行形の復習
- 3 because, so の使い方の復習

### Focus 1 過去形の使い方の復習

過去形の用法は、①過去の特定の時に行われた動作や行動を示す場合、②特定の時が示されなくても、過去に起こった動作を示す場合、③過去の習慣を表す場合にも使われます。

そして、規則動詞の過去形を作る時は、語尾に **-ed** を付けるだけで過去形になります（ただし語尾が変化する場合があります。不規則動詞とは動詞の語尾に **-ed** を付けずに過去形を作る動詞を指します）。

用法①： **He walked to the station this morning.** 「今朝、彼は駅へ歩いて行った」。これは、動詞の **walk** に **ed** を付けて過去形になっています。

用法②： **My grandfather once saw Queen Elizabeth.** 「私の祖父は一度エリザベス女王を見たことがある」。動詞 **saw** は **see** の過去形で不規則動詞です。

用法③： **I never drank coffee when I was a child.** 「私が子どもだった時、絶対にコーヒーを飲まなかった」。この文の過去形は両方とも不規則動詞です。

また、否定文の場合は通常「**didn't + 動詞の原形**」を使い、**He didn't walk to the station this morning.** 「今朝、彼は駅には歩いて行かなかった」となります。

### Focus 2 現在進行形、過去進行形の復習

現在進行形の用法は、①現在進行中の動作、②近い未来のはっきりとした予定を表現する場合に使います。

用法①：It is raining (now). 「(今) 雨が降っています」。

用法②：I am eating dinner at home tonight. 「私は今晚家で夕食を食べます」。

過去進行形の用法は、①過去のある期間に渡って続いた動作を示す（ただし、その期間が何時から何時までは厳密に不明で、また重視されない場合が多い）。②過去に始まり、その時点以降も継続したと思われる動作を表す場合。

用法①：It was getting darker. だんだん暗くなっていった。

用法②：At seven o'clock in the morning, he was having breakfast. 「朝の7時に彼は朝食を食べていた」。この文は「朝の7時に朝食を食べている途中であった、つまり朝食は7時前に始まっていた」ことを表しています。

### Focus 3 because, so の使い方の復習

理由を表す文は because や as, since などによって表されます。理由を because, since, as の以下の節で説明をします。because を使う場合は理由が最も重要である場合です。since と as は理由が既にわかっている場合、または理由がそれほど重要でない場合に使います。

#### ■ because の用法

○ Students like her because she is a very kind teacher.

「彼女が非常に優しい先生なので、学生たちは彼女が好きなのです」

× Students like her as she is a very kind teacher.

#### ■ as since の用法

As you are sorry, I will forgive you.

「あなたが後悔しているのだから許してあげよう」

Since there is no time, let us begin.

「時間がないから始めよう」

上の2つの文では because を使っても意味的に問題はありませんが、理由がそれほど重

要ではないと思われるので **since** や **as** のほうが適当です。

文中に **I also felt good because you are my friend.** 「それに君が僕の友達だから気分が良かった」という文がありました。この文は理由を **because** で述べていますが、**since** を使っても正しい文になります。**I also felt good since you are my friend.** ここでは「気分が良かった」ということが重要で「あなたが友達」ということは既にわかっていたことだからです。

**So** を使った場合、「ゆえに、したがって、その結果」と言う意味合いになります。

また「だから、それで」と言う意味合いにも使えます。ただし、**because** は理由をいっていますが、**so (that)** は結果をいっているなので、節が入れ替わることに注意しましょう。

**I felt good because I was a frog.** 「僕は自分がカエルなので気分が良かった」

**I was a frog so I felt good.** 「僕がカエルだから気分が良かった」